

# かみっこ

合い言葉は  
「自ら考える」

令和5年6月27日

## 「学び」を生かして

校長 平澤 啓介

6月3日、さわやかな春空のもと、運動会を無事に開催することができました。保護者の皆様には、子どもたちへの温かい応援に加え、変更した観戦方法へのご協力もいただきありがとうございました。また、前日が大雨だった影響もあり、PTA役員の皆様には、早朝より会場準備を手伝っていただきました。後片付けも保護者のご協力により、たいへんスムーズに行うことができました。ありがとうございました。

運動会当日、児童会スローガン「安心して全力を出そう」のもと、子どもたちは練習の成果を十分に発揮することができました。競技に全力を出し切ることはもちろん、仲間と声をかけ合い、力を合わせて取り組む姿がとても素敵でした。元気に走り回った「しっぽ取り」、作戦を工夫した「シン・追っかけ玉入れ」や「短縄引き」など、どれも見応えのある競技でした。踊る姿が可愛らしい「私は最強」、大きな動きがかっこいい「ソーラン節」、仲間を信頼して堂々と踊った「キツネダンス」など、学年演技もとても素晴らしい仕上がりでした。また、応援合戦では、団席の声出しが復活し、迫力ある応援に感動しました。



閉会式で両団長が「みんなの協力で最高の運動会になりました。」「下級生のみなさん、この素晴らしい運動会を受け継いでください。」と語ったように、子どもたちも達成感や充実感を十分に味わうことができたと思います。

神岡小学校では、コロナ禍の3年前から運動会の開催時期を6月に、実施時間を午前中に変更しています。新型コロナウイルスの対応が変わった今年も、昨年と同じ開催方法を継続しました。これは、その間に実施した保護者アンケートで、「保護者の負担が少なく、ゆっくり参観することができた。」「子どもたちの演技や競技にも十分に見応えがあった。」など、好意的な意見が8割を超えていたこともあります。この開催方法でも教育活動としての運動会の目標が十分に達成できると分かったことも大きな理由です。

3年以上続いたコロナ禍は、子どもたちの学校生活に大きな影響を与えましたが、その間に教育活動を工夫して得られた「学び」も少なからずありました。そうした「学び」を生かしながら、今後もよりよい教育活動を検討したいと考えています。

